

(9) 代表的な疾患と算定日数の関係

代表的な疾患と算定日数の関係、及びその患者の内訳は次のとおりである。

算定日数上限前にリハビリテーション料の算定を終了した患者のうち、「身体機能の改善の見込みがある」とされた患者の割合が高い。これは、調査に回答した医療機関でのリハビリテーションが終了した患者が対象であり、実際にはその後、他の医療機関にてリハビリテーションを実施しているものと推察される。

表 6.6-1 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限前に終了)

	上限前（135日まで）						
	態 維 持 が 可 能	生 活 の 場 で 状	これ以上改善の見込みはない			身 体 機 能 の 改 善 の 見 込 み が あ る	無 回 答
			状態維持のためにリハの継続が必要				
		介 護 保 険 対 象	介 護 保 険 対 象 外	無 回 答			
合計 (N=287)	101	45	6	0	116	19	
	35.2%	15.7%	2.1%	0.0%	40.4%	6.6%	
上・下肢の複合損傷（骨、筋・ 腱・靭帯、神経、血管のうち3 種類以上の複合損傷）(N=154)	58	16	4	0	67	9	
	37.7%	10.4%	2.6%	0.0%	43.5%	5.8%	
関節の変性疾患 (N=65)	17	13	1	0	27	7	
	26.2%	20.0%	1.5%	0.0%	41.5%	10.8%	
関節の炎症性疾患 (N=20)	10	1	1	0	8	0	
	50.0%	5.0%	5.0%	0.0%	40.0%	0.0%	
運動器不安定症等 (N=21)	4	11	0	0	5	1	
	19.1%	52.4%	0.0%	0.0%	23.8%	4.8%	
その他 (N=27)	12	4	0	0	9	2	
	44.4%	14.8%	0.0%	0.0%	33.3%	7.4%	

表 6.6-2 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限をもって終了)

	上限（136～150日）をもって終了						
	態 維 持 が 可 能	生 活 の 場 で 状	これ以上改善の見込みはない			身 体 機 能 の 改 善 の 見 込 み が あ る	無 回 答
			状態維持のためにリハの継続が必要				
		介 護 保 険 対 象	介 護 保 険 対 象 外	無 回 答			
合計 (N=186)	62	51	12	0	55	6	
	11.0%	9.0%	2.1%	0.0%	9.8%	1.1%	
上・下肢の複合損傷（骨、筋・	29	12	2	0	17	2	